



未来を夢見て Season 2

2021/7/14 No. 89

心温まる6年生の児童の行い ～「心を真剣」に育てる～

「校長先生、ちょっといいですか」

7月14日（水）の朝、いつものように交通指導を終えて学校に戻ろうとしたとき、いつも交通指導をしてくださっている渡辺良雄さん（大和町議会議員）に呼び止められました。

「この写真を見てください（下左から1枚目、2枚目）」

「ゴミステーションからごみが散乱していたところ、このお子さんが一人で掃除をしてくれました。偉いなあ、と思って写真を撮りました。残念ながら名前が分かりませんが、ぜひ褒めてあげてください」

子供たちのことを褒めていただくのは、自分のことを褒めていただくより数倍うれしいことです。早速学校に戻って、確かめてみると6年生のIさんであることがわかりました。だれから言われたわけではなく、自然に片づけていたその行動を渡辺さんがしっかり見守ってくださっていたのです。Iさん、ありがとうございました。



さて、昨日は1回目の連サポがありました。私もGoogle Meetで授業、検討会と参観させていただきました。私は同じ義務教育の小中学校の教員は、もっともっとお互いの授業を参観すべきだと常々思っています。理由は2つあって、1つは学習指導要領が、小学校から中学校へと9年間の学びの連続性を踏まえて作られていること。そして、もう1つ。ここが肝心なのですが、小学校も中学校も、授業の土台は学級づくりにある、ということです。



昨日、宮床中学校の3年生の国語の授業を見せていただいて、先生と生徒の距離がとても近い、生徒が先生を信頼して学んでいる様子がとても印象的でした。私たち教師が子供たちとの信頼関係を築くには近道はなく、日々の授業を通してこそ、子供たちの信頼を得ることができるのだと思います。中学校3年生ともなれば、受験も意識し、自ずと授業に求める価値や意義は高まっているものと推察します。昨日の授業を参観して、生徒が先生を信頼している背景には、きっと先生が日々、誠実に授業づくりに取り組んできた努力があったことと思います。

次回、9月の連サポは本校が会場です。宮床中学校さんの実践での成果を踏まえ、今日から新たな気持ちで日々の授業づくりに取り組んでいきましょう。

（文責：手代木）